
花とハチ

真亜流

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花と八チ

【Nコード】

N7241C

【作者名】

真亜流

【あらすじ】

花はひとりぼっちだった。ある日八チが1匹飛んでくる。花と八チの小さなラブストーリー！。

この星には私以外誰もいないのだろうか……

岩の間に咲いた小さな白い花は嘆いた。

ねえ。誰か。返事をして下さい。

返事をしてくれたら……私以外の誰かに逢えたら……

……

私とても幸せです。

ハチが飛んできた。

「こんにちは」花が嬉しそうに言った。

「やあ」

「私と友達になってくださる？」

「うん。いいよ」ハチは答えた。

「ありがとう！」

「きみの花粉をくれるかい？」

「もちろんよ！」花は笑って言った。

「君はもうじき、枯れるよ」花の顔が曇った。

「え？」

「でも、もうすぐ、種が落ちるさ。そしたら君の子が生まれるよ」

「うれしい！死ぬのなんか怖くない！」

「君は土の中で子供たちを育てるのだよ」

「うん！」

「ぼくはここにいますからね」

ハチも弱っていた。

ある日花とハチは寄り添って死んでいた。

春……生き生きとした花が幾つも咲いた。

もう誰も一人ぼっちではなかった。

ハチもたくさん集まっていた。

悔やんでいない……たった一人の大切な人と……

一緒に

．．．．．新しい命を育てているのだから。

生きものは皆次の命を受け継ぐために生きているのだよ。

豊かな自然を守るために。

生き生きとした地球を永遠にあるために。

誰もひとりぼっちになつては生きてゆけない。

花とハチは今も生きつづけるのだ。

今もこの瞬間も．．．．．

わたしたちは生きつづけよう。

（後書き）

初めての投稿です。

この話はノートに書き綴ったものを少し変えて書きました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7241c/>

花とハチ

2011年1月20日14時54分発行